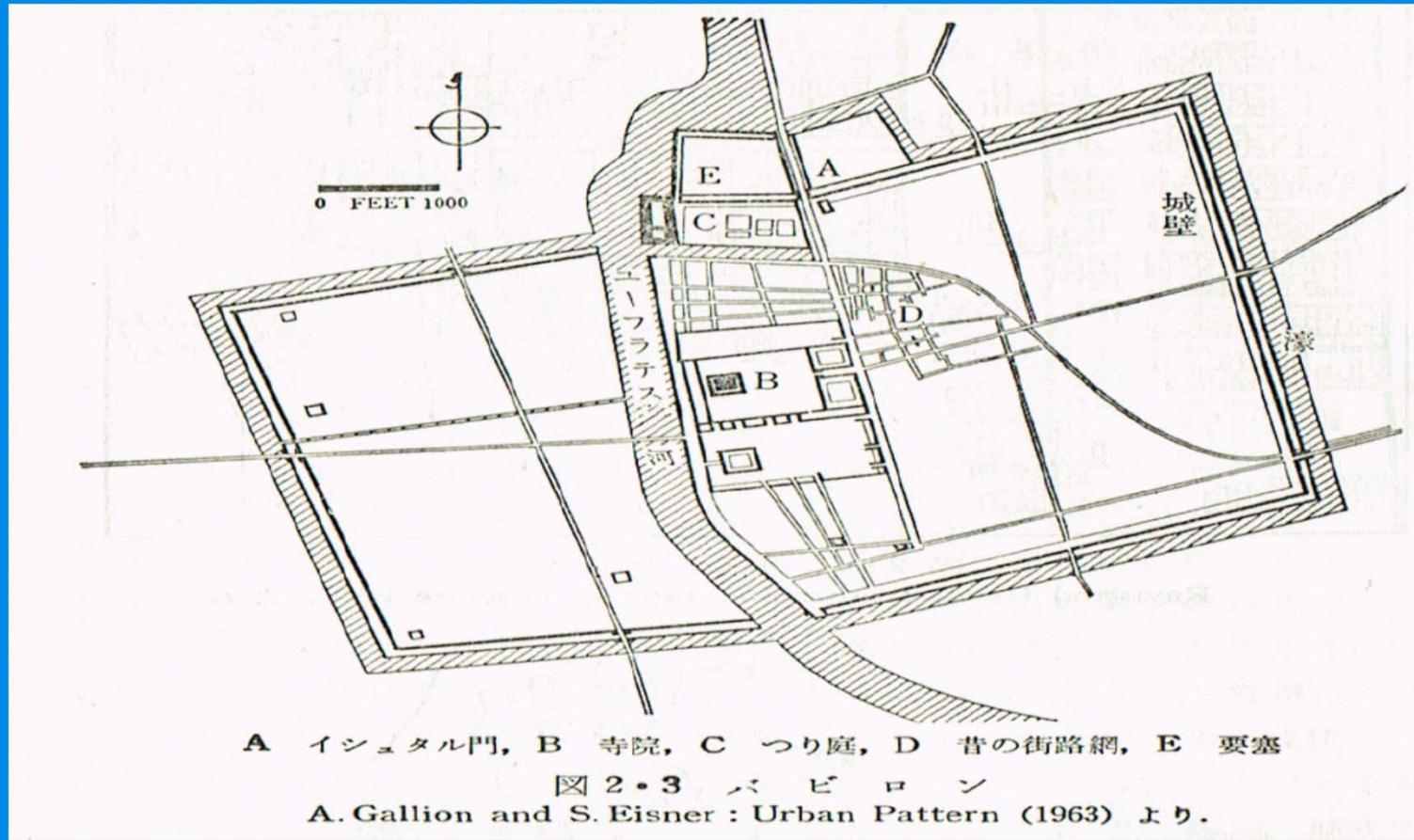


世界の都市政策とアジアの視点

野田 順康
平成26年7月

1. 都市の変遷

①都市の起源：紀元前5000年頃 城壁都市 メソポタミア（ウルク、バビロン等）



エジプト(メンフィス、テーベ、カフン等)

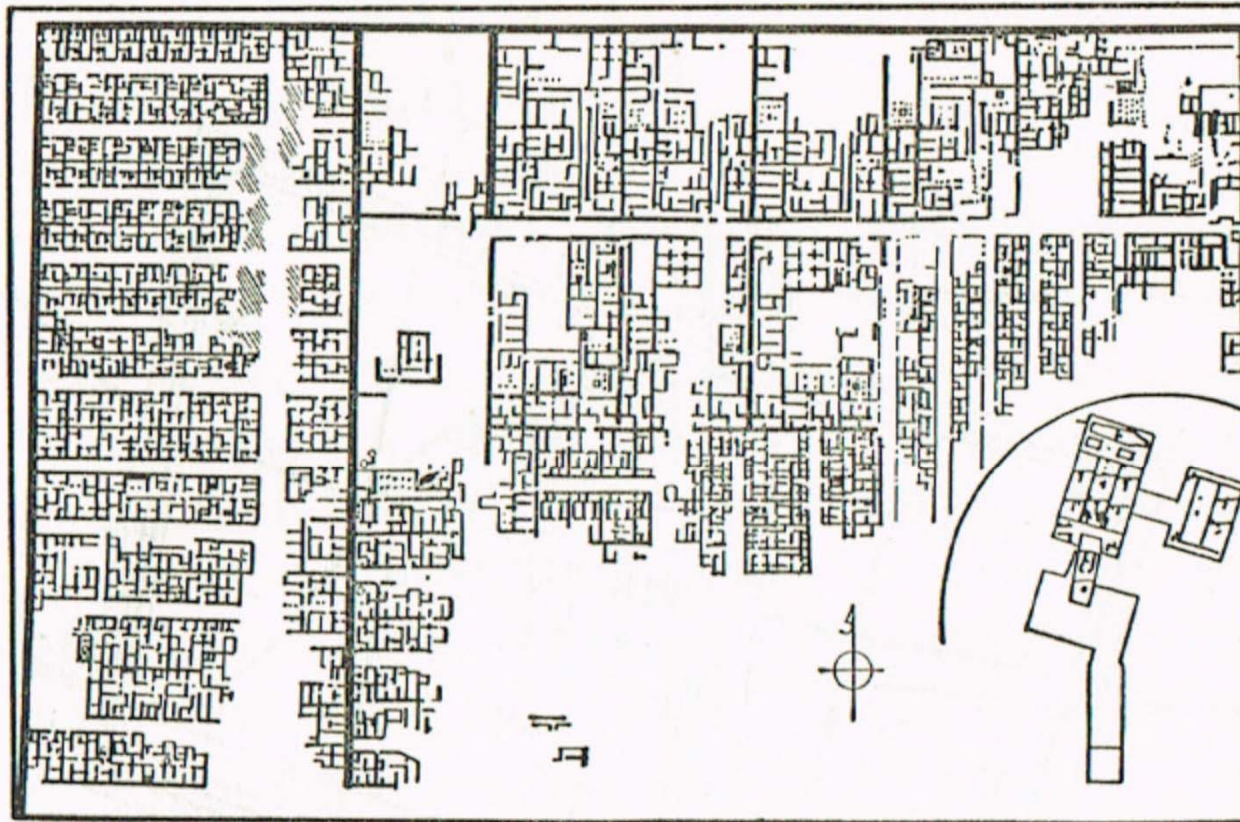
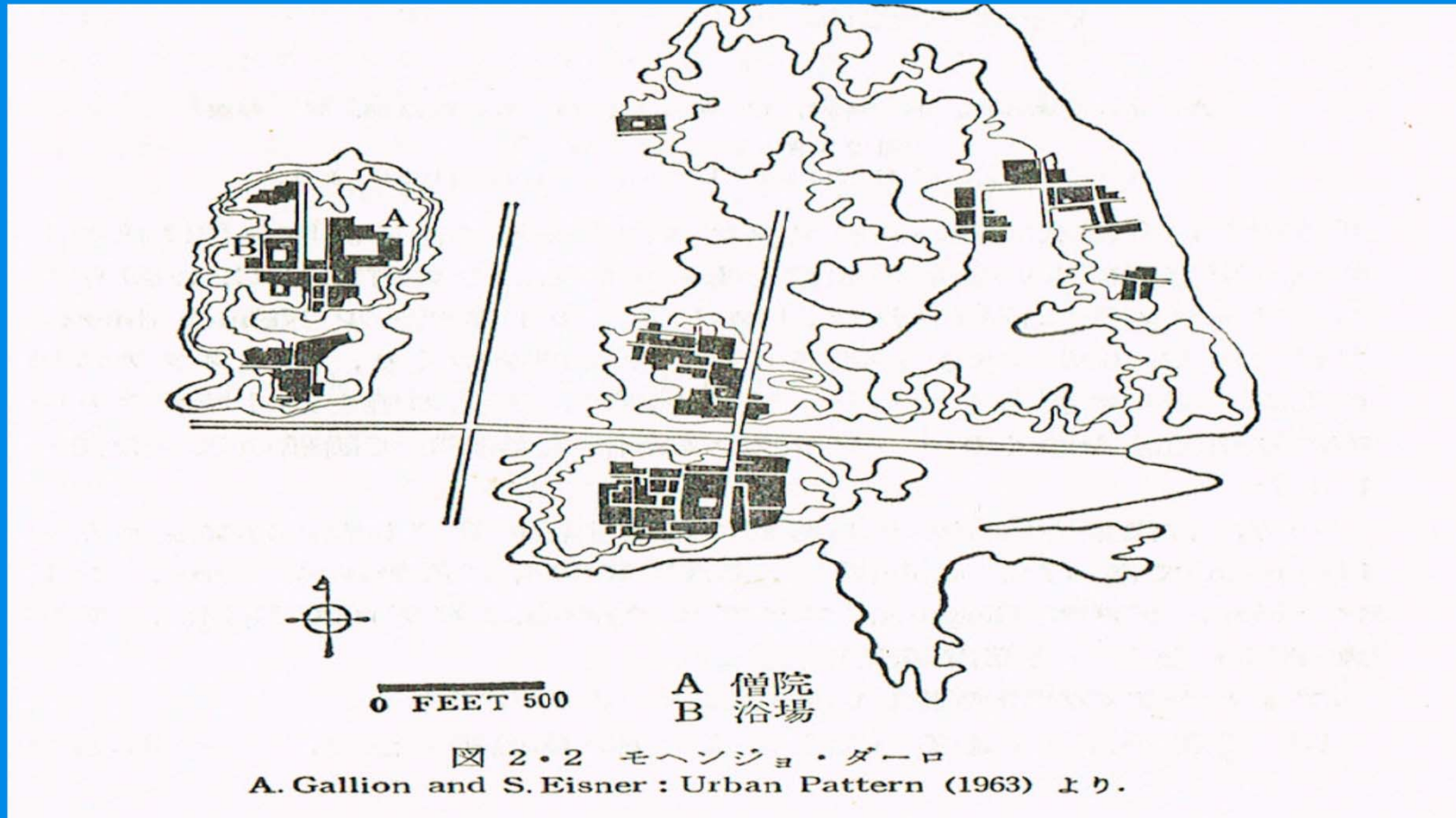


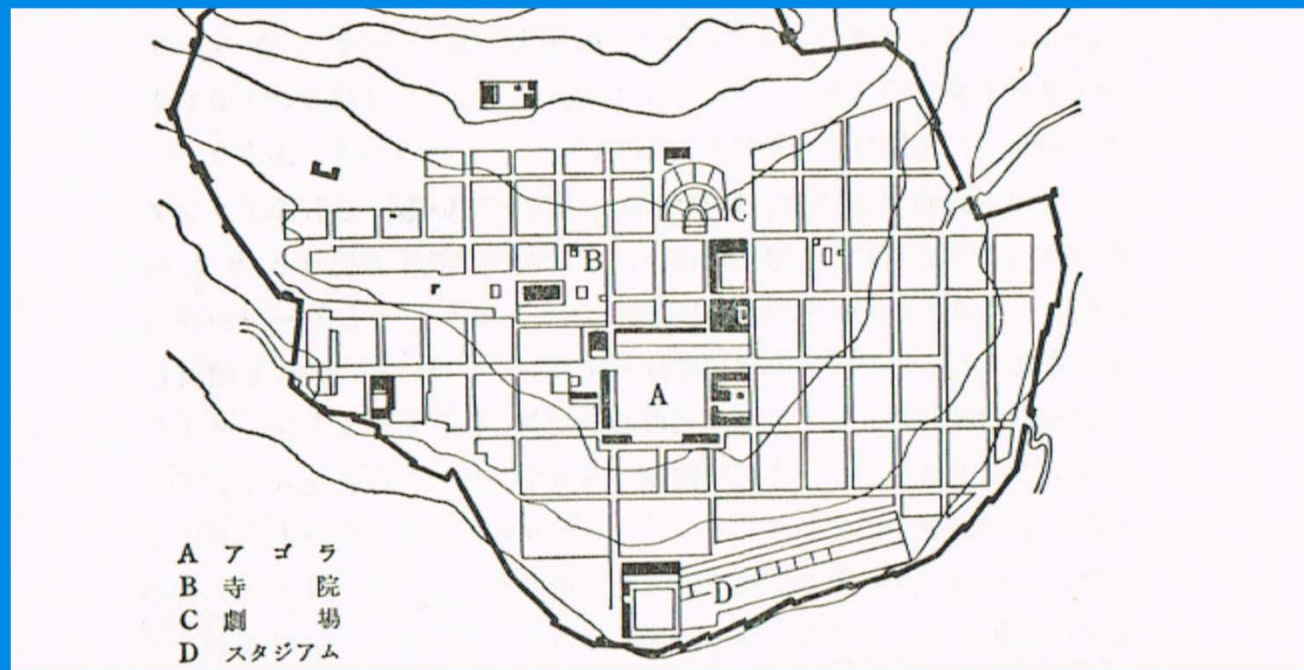
図 2・1 カ フ ン

Raymand Unwin : Town Planning in Practice (1920) より.

紀元前3000年頃 インダス渓谷 モヘンジョ・ダーロ

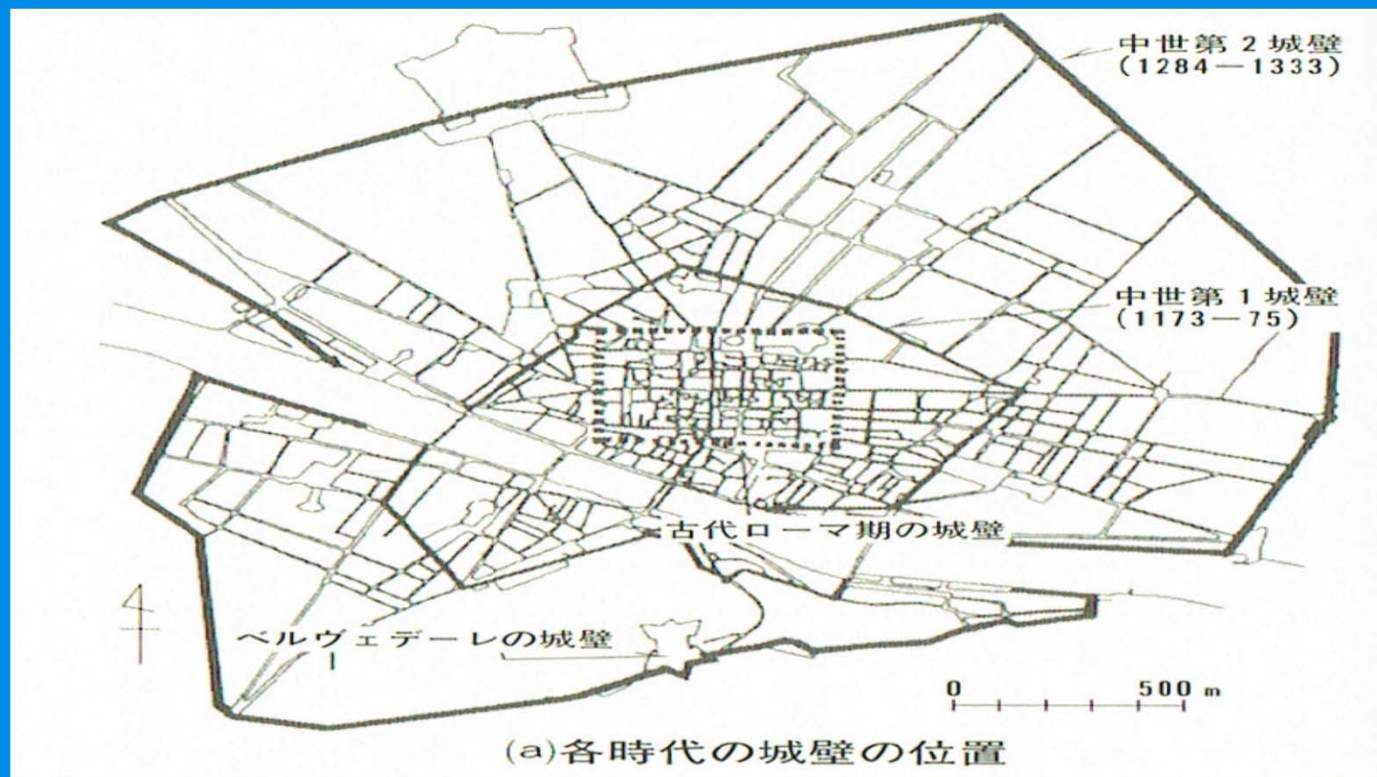


- ② ギリシャの都市国家(紀元前500年頃)
自給自足(人口1万人位が適切)
高地を選択: アクロポリス、アゴラ
⇒ ローマ帝国の都市群
ヨーロッパ全体へ拡散(現在の20%)



③ 100万都市の出現

- 紀元前100年頃のアレクサンドリア
- ローマ、バグダッドは中世に100万人超
- ロンドン、パリ等は中世でも小規模(10万)



④ 大都市の成長

- 1200年頃から19世紀初頭
最大都市は杭州、北京(150万人程度)
江戸も100万都市
- 産業革命後のロンドンの成長
1850年:230万人 ⇒ 1900年:650万人
- 1950年:ニューヨーク都市圏 1千万人超
- 1970年:東京圏が最大に
- 先進国のメガシティは衰退へ

FIGURE 1.1.2: THE WORLD'S MEGACITIES, 2007 AND 2025

2007

		Population (Thousands)
1	Tokyo	35,676
2	Mexico City	19,028
3	New York-Newark	19,040
4	São Paulo	18,845
5	Mumbai	18,978
6	Delhi	15,926
7	Shanghai	14,987
8	Kolkata	14,787
9	Buenos Aires	12,795
10	Dhaka	13,485
11	Los Angeles-Long Beach-Santa Ana	12,500
12	Karachi	12,130
13	Rio de Janeiro	11,748
14	Osaka-Kobe	11,294
15	Cairo	11,893
16	Beijing	11,106
17	Manila	11,100
18	Moscow	10,452
19	Istanbul	10,061

 : Cities located near a large water body (sea, river or delta)

2025

		Population (Thousands)
1	Tokyo	36,400
2	Mumbai	26,385
3	Delhi	22,498
4	Dhaka	22,015
5	São Paulo	21,428
6	Mexico City	21,009
7	New York-Newark	20,628
8	Kolkata	20,560
9	Shanghai	19,412
10	Karachi	19,095
11	Kinshasa	16,762
12	Lagos	15,796
13	Cairo	15,561
14	Manila	14,808
15	Beijing	14,545
16	Buenos Aires	13,768
17	Los Angeles-Long Beach-Santa Ana	13,672
18	Rio de Janeiro	13,413
19	Jakarta	12,363
20	Istanbul	12,102
21	Guangzhou, Guangdong	11,835
22	Osaka-Kobe	11,368
23	Moscow	10,526
24	Lahore	10,512
25	Shenzhen	10,196
26	Chennai	10,129

 : New megacities

Source: UN-HABITAT 2008

Data from UN Population Division, World Urbanization Prospects 2007.

Figures for 2025 are projections.

Note: Population figures are for urban agglomeration, not city proper.

Megacities are cities with populations of more than 10 million.

2. 都市計画の経緯

① 古代都市の設計

目的：外敵防御、神・宗教・王
統治、公衆衛生、美学

ハード：立地、地形、自然条件
街割り（格子割の均質性・合理性）
城壁、環濠、砦

② 田園都市論(1898年:ハワード)

- 大都市郊外の田園的な住宅地ではない
- 農村の田舎町でもない
- 田園の環境の中で都市生活(文化施設)
- 工業を中心とした自給自足の独立都市

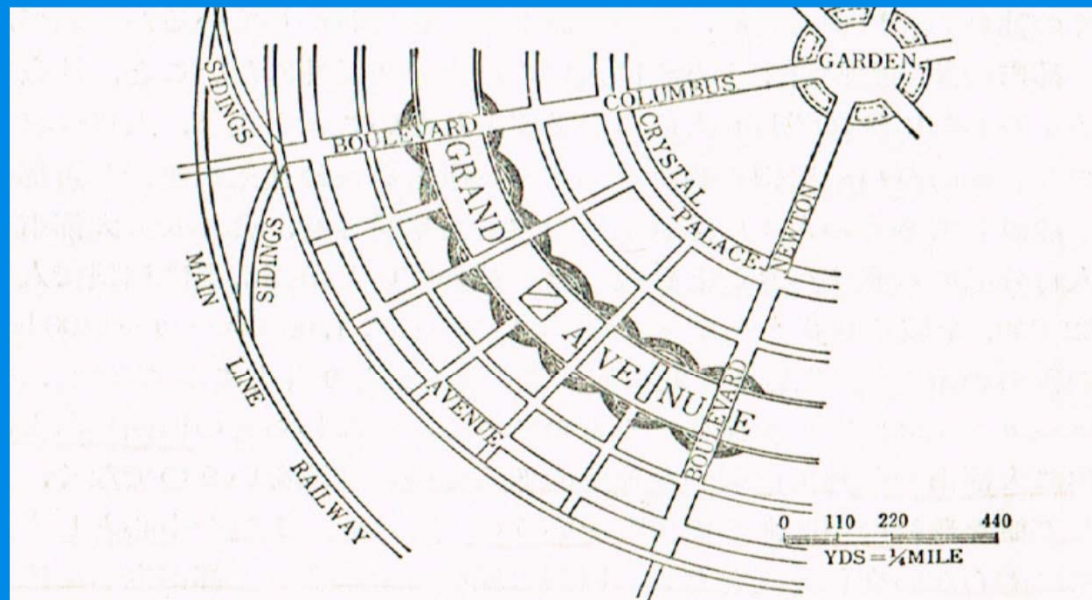


図 1・1 ハワードの田園都市
(上) 全図 (下) 中央部分図

C.B. Purdom : The Building of Satellite Towns (1925) より。



③ 衛星都市論 ⇒ 大都市化への対応

1915年:テーラー ⇒ シカゴ、セントルイス

1923年:ホイトン 母都市と衛星都市を
公園、植物園、公共施設で分離

⇒ 無秩序な大都市の膨張を抑制

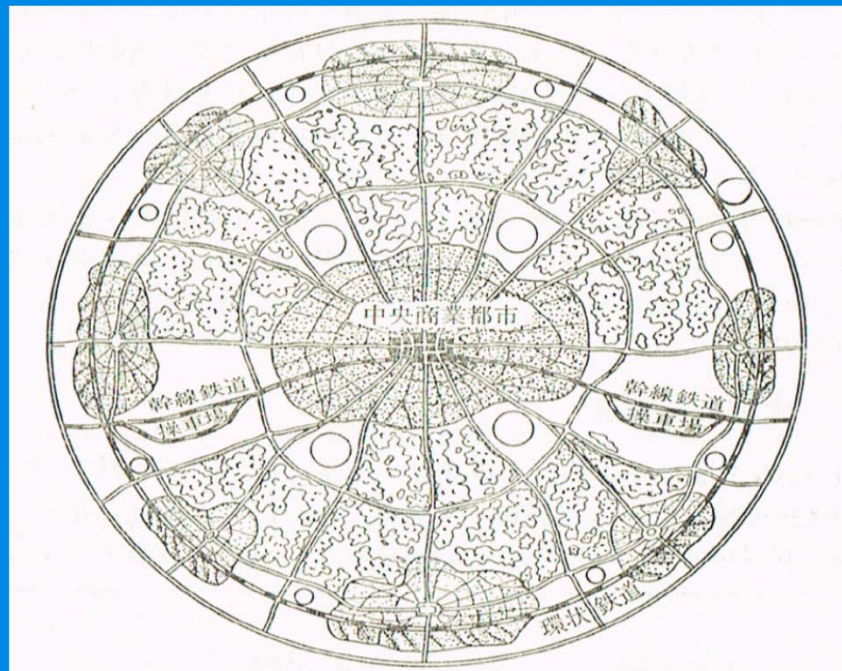


図 1・3 ホイトンの衛星都市論の構想図
C.B.Purdom: The Building of Statellite Towns (1925) より.

④ 大都市計画論(1922年:ル・コルビエジェ)

- 人口300万人を理想規模
- 5万人を収容できるスカイスクレーパー
- 地下鉄、高速道路等の交通ネットワーク

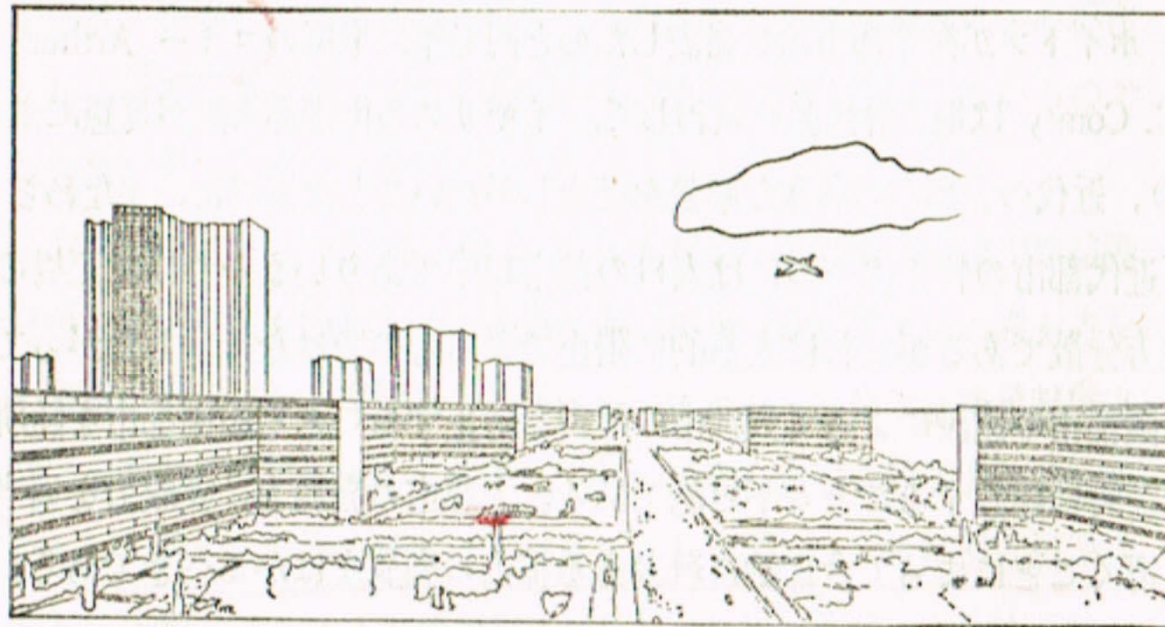


図 1・4 ル・コルビエジェの理想都市

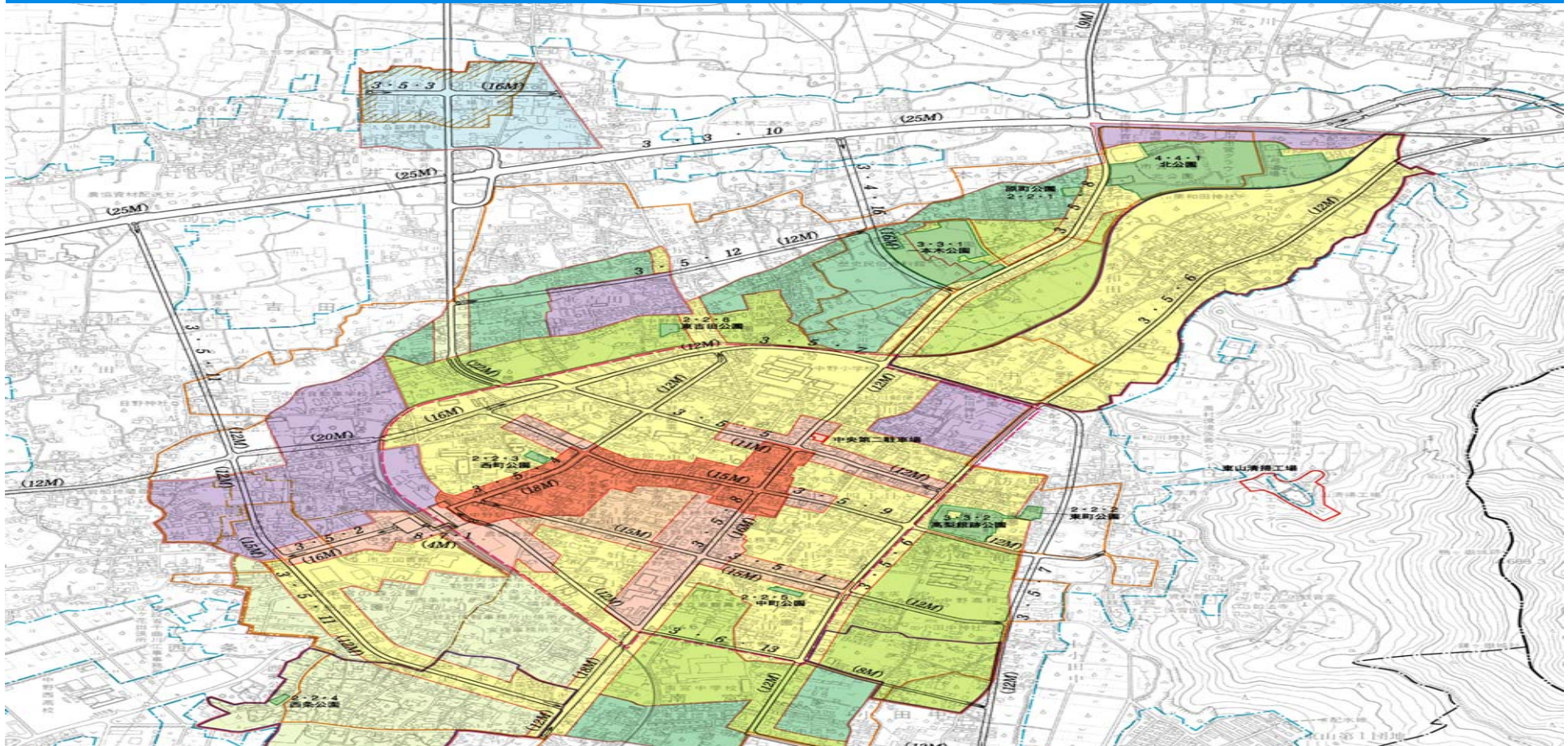
武居高四郎:都市計画(1966)より再録.

⑤ 近年の課題

- ブラウン・アジェンダ（都市の老朽化）
人口流出、高齢化、治安の悪化等
⇒ 都市再生
- 縮退する都市（サッセン）
人口減でインフラ等の維持が難しい
⇒ 住区の再編成、都心の活性化
- エネルギー効率の高いコンパクト・シティ
地球温暖化 ⇒ 持続可能性

⑥ 地域制(用途地域)

都市計画の基本 ⇒ 純化政策
老朽化、空洞化、大きな移動



3.世界都市フォーラム

1. 2002年ナイロビ(ケニア):持続可能な都市化
2. 2004年バルセロナ(スペイン):都市は文化、絆、融合の十字路化
3. 2006年バンクーバー(カナダ):私達の未来:持続可能な都市 — 考えを行動に移そう
4. 2008年南京(中国):調和ある都市化:均衡ある発展への挑戦
5. 2010年リオ(ブラジル):都市の権利:都市格差
6. 2012年ナポリ(イタリア):都市の未来
7. 2014年メデリン(コロンビア):開発における都市の公平性:生活のための都市

● 近年の重要課題の系譜

1972年：ローマクラブ「成長の限界」

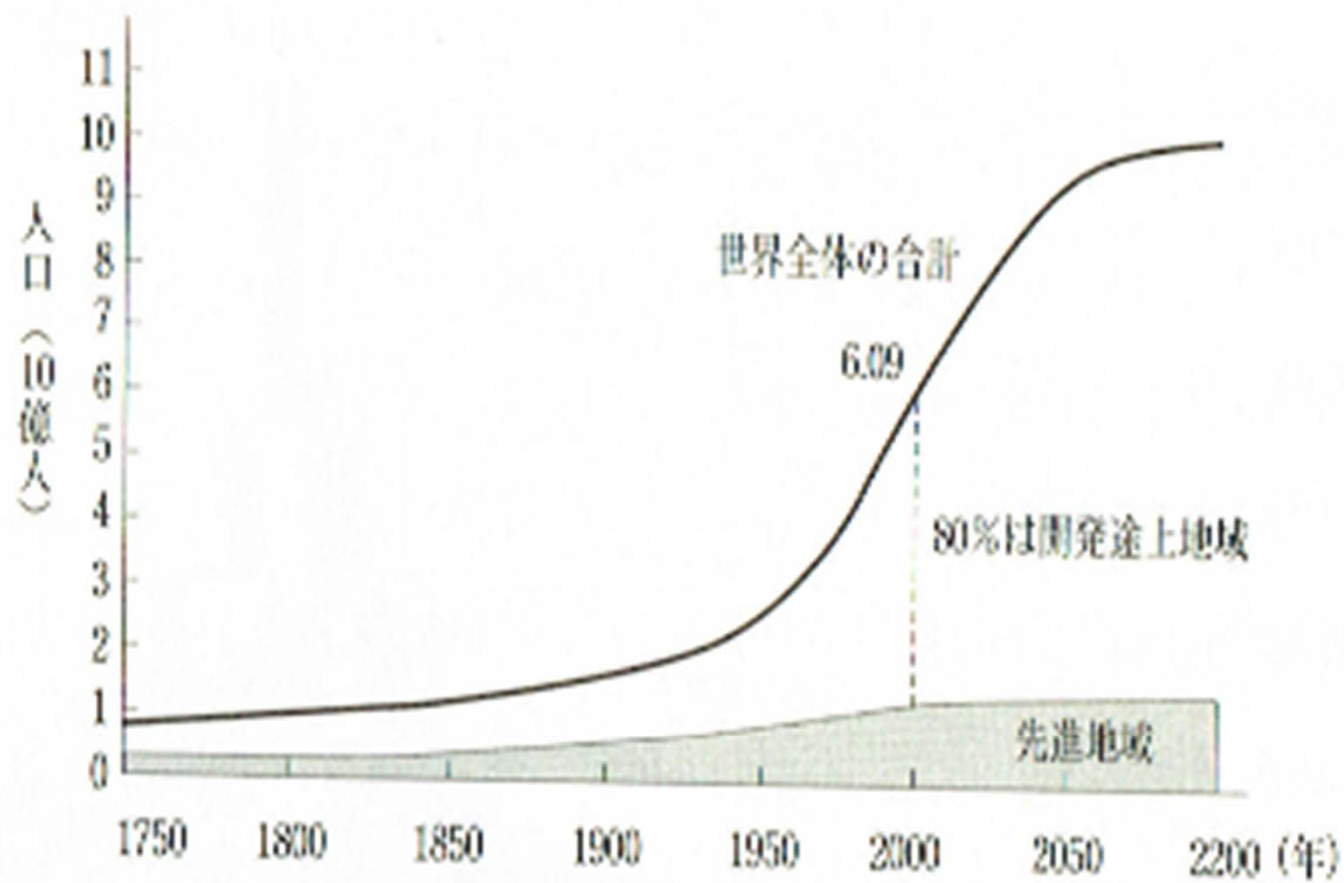
1972年：国連人間環境会議「かけがえのない地球」 スtockホルム

1976年：国連人間居住会議「人口爆発と都市化」 バンクーバー

1987年：ブルントラント委員会「地球の未来を守るために」 ⇒ Sustainability

1992年：国連環境開発会議(リオサミット)「持続可能な開発」

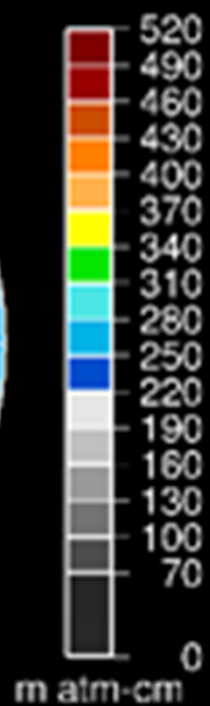
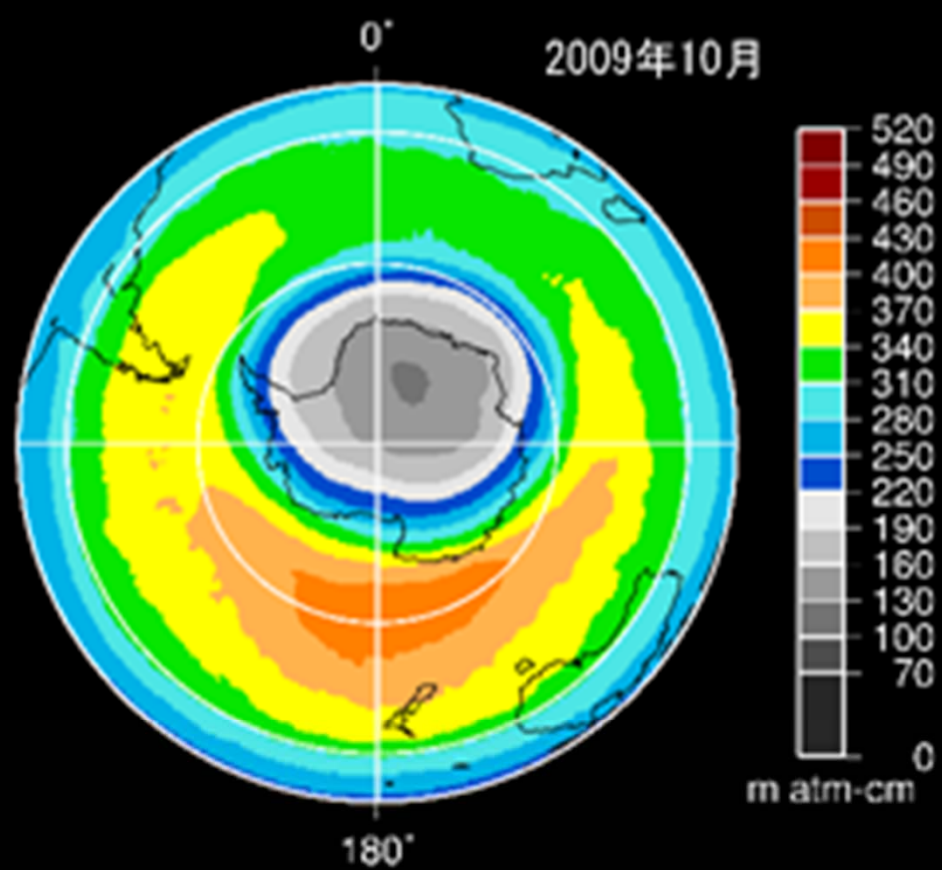
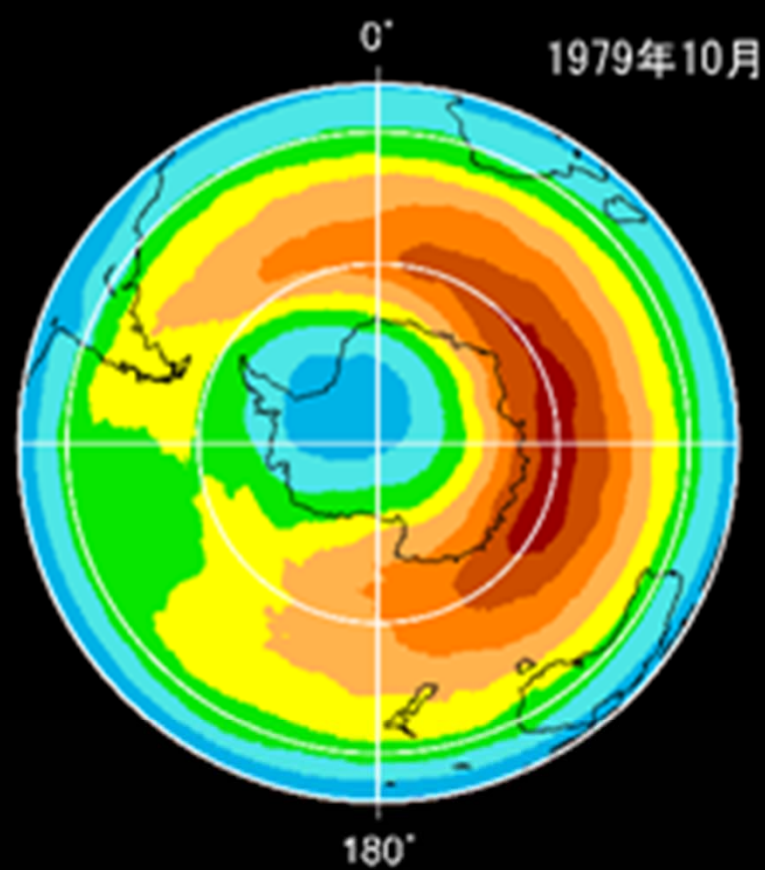
図 1-2 世界の人口増加



出所: Todaro and Smith 邦訳 [2004] p.325.







米国航空宇宙局 (NASA) の衛星観測データを基に作成 気象庁

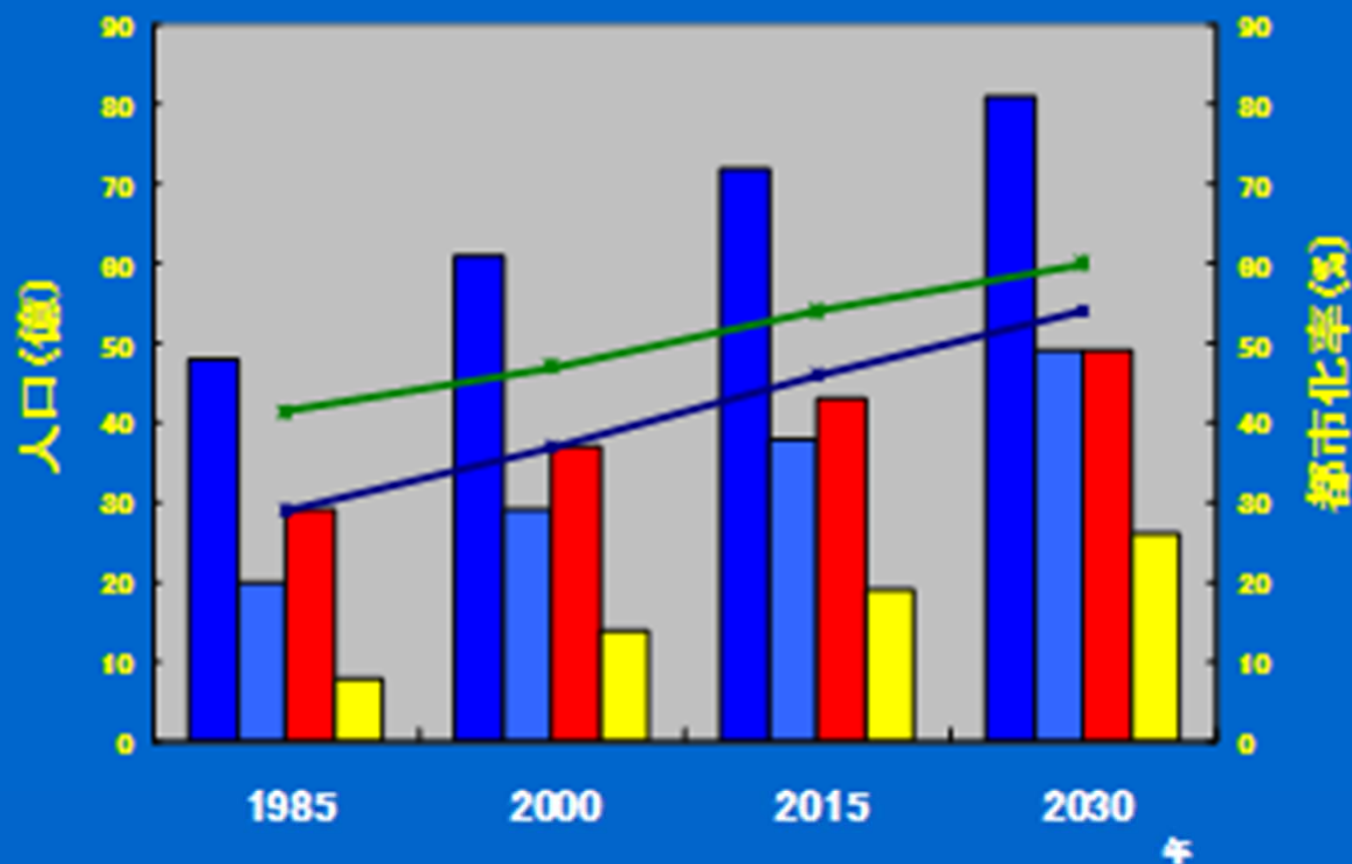


Find more subjects at www.nationalgeographic.com
© 2007 National Geographic Society. All rights reserved.

Photograph by David Housh/Earthly Images



世界における都市化の現状



青: 世界総人口; 水色: 世界都市人口

赤: アジア総人口; 黄色: アジア都市人口

緑: 世界の都市化率; 紫: アジアの都市化率

● 世界都市フォーラムの主要課題

1. 持続可能な都市

- エネルギー効率の良い都市
- コンパクトな都市
- 土地利用の純化 ⇒ 混住化

2. 都市における公平性・一体性

- 都市内格差(富裕層と貧困層)
- スラム拡大への対処

3. 均衡のとれた発展

- 都市は成長のエンジン
- 均衡ある地域発展(調和)

4. 都市の安全性

- 紛争・災害に強い都市
- 治安維持、犯罪への対処

5. 都市とジェンダー

- 女性に優しいまちづくり
- エンパワースメント

● 第7回世界都市フォーラム

- 2014年4月5日から11日 メデリン
- Urban Equity in Development
- 都市内の格差が拡大していることに着目
(発展途上国ばかりでなく先進国も)
所得、住居、教育、雇用、医療……
- Creative city, Resilient cityの拡大解釈
- Post – MDGs
MDGs ⇒ SDGs(食糧、エネルギー、
地球の温暖化等)

国連の 8つのミレニアム開発目標

- 目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅
- 目標2: 初等教育の完全普及の達成
- 目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上
- 目標4: 乳幼児死亡率の削減
- 目標5: 妊産婦の健康の改善
- 目標6: HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止
- 目標7: 環境の持続可能性確保
- 目標8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

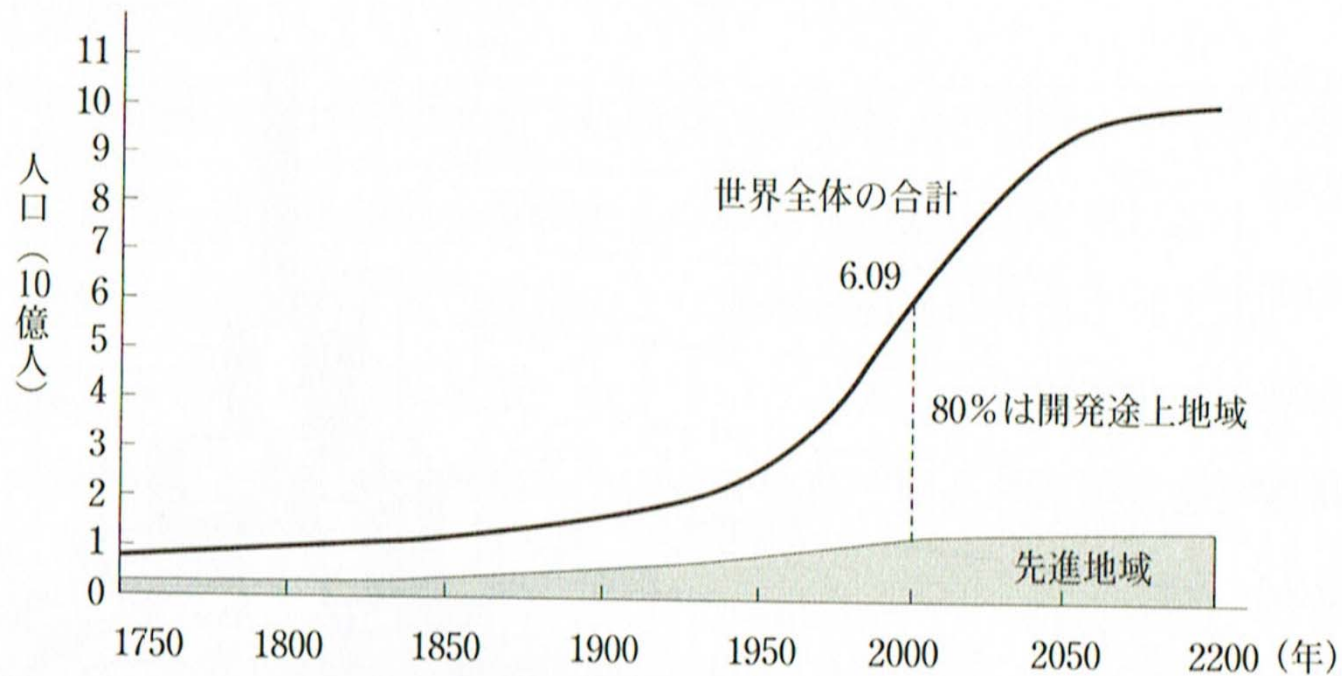
4. アジアの視点

- 急速な人口成長と都市化（現在42%）
- 都市化に応じて経済も急成長
- 経済成長は平等に恩恵を与えていない
- 明るい公式経済と暗い非公式経済が共存
- 現時点で5億人のスラム居住者がいる
- 現在の消費パターンは持続可能ではない
- 環境の悪化が進んでいく
- 水、食糧の確保が大きな問題になってくる

貧困は人口増加と密接な関係

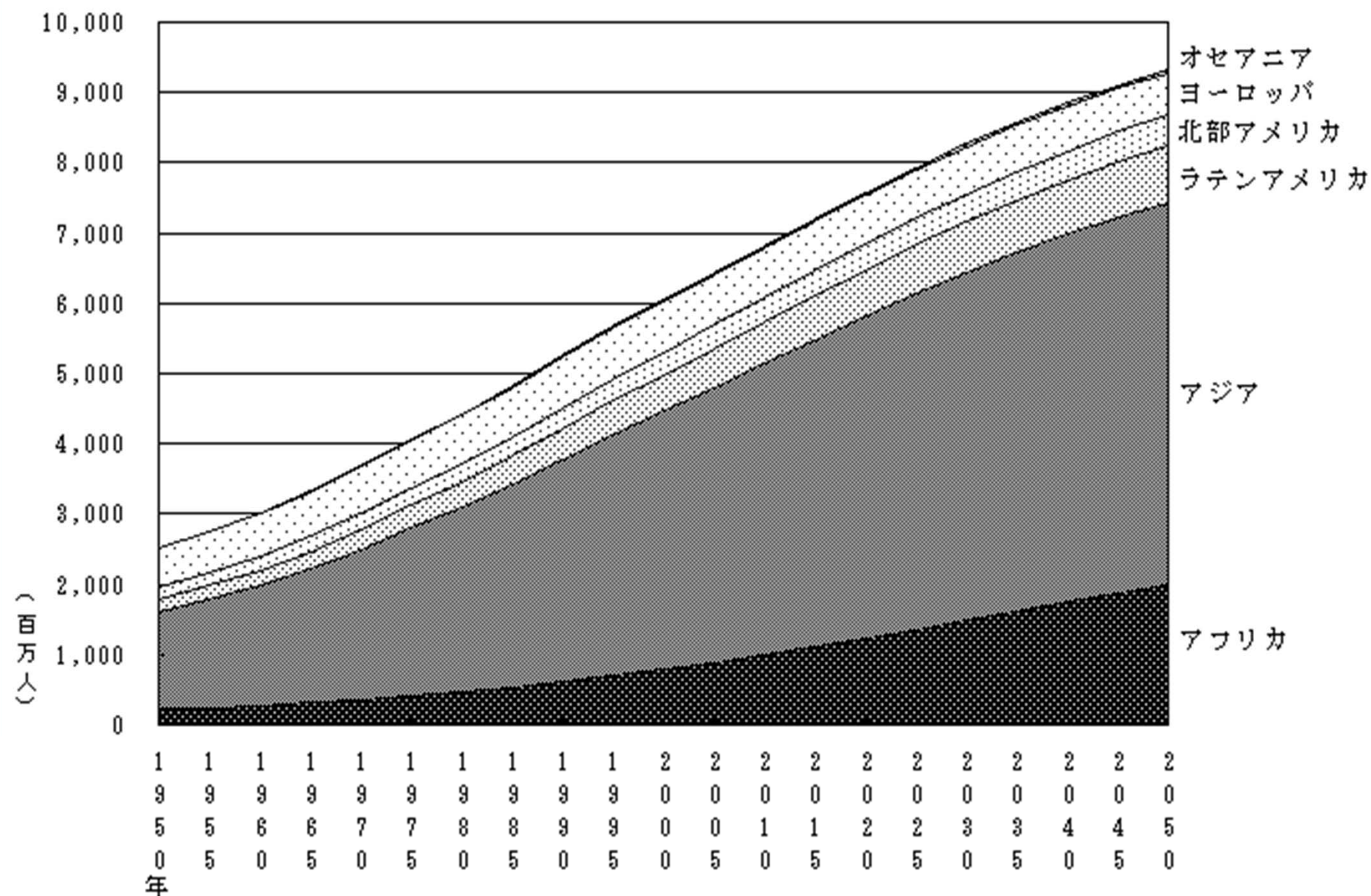
- ・増加の大半は途上国
- ・今世紀末に世界の4人に一人はアフリカ人
- ・今世紀後半にインドの人口が世界一

図 1-2 世界の人口増加



出所：Todaro and Smith邦訳 [2004] p.325.

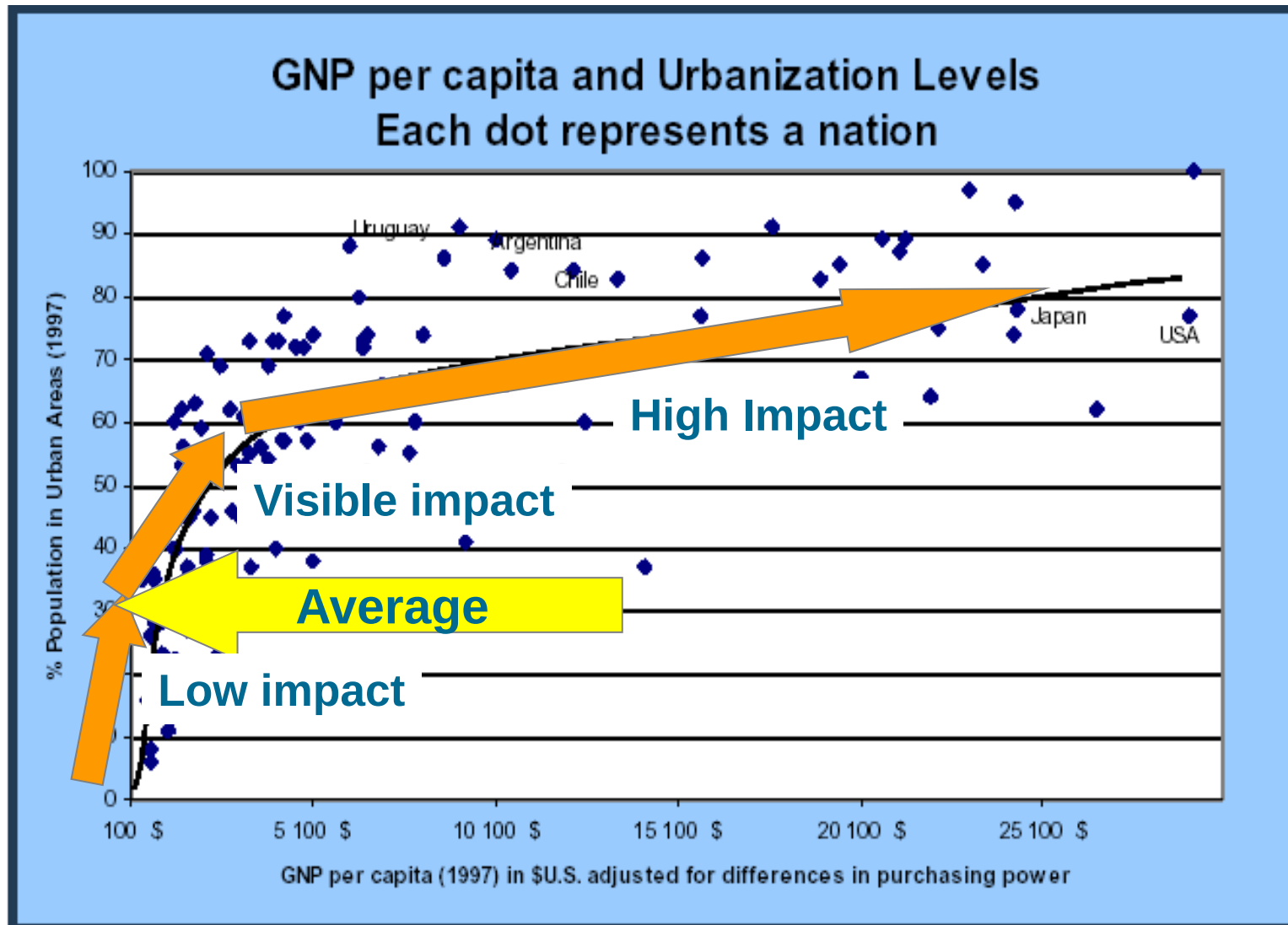
図1 世界の地域別人口の推移（1950年～2050年）



資料：United Nations, *World Population Prospects* 2000 年版による。

Urbanisation will trigger the next trajectory of growth

Urbanization combined with high economic growth.



都市と農村の地域的な水平格差

同時に拡大

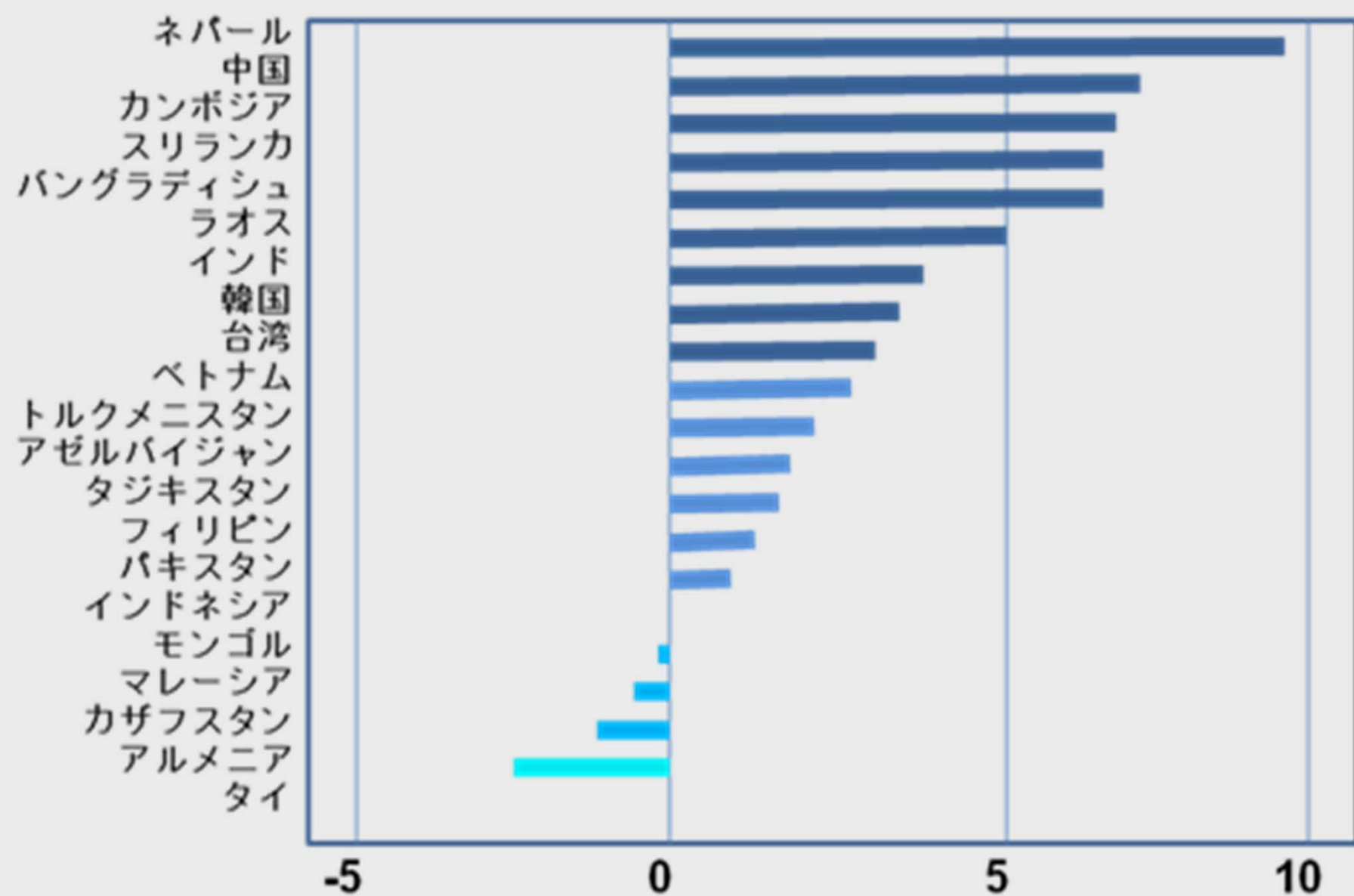
都市内の

富裕層

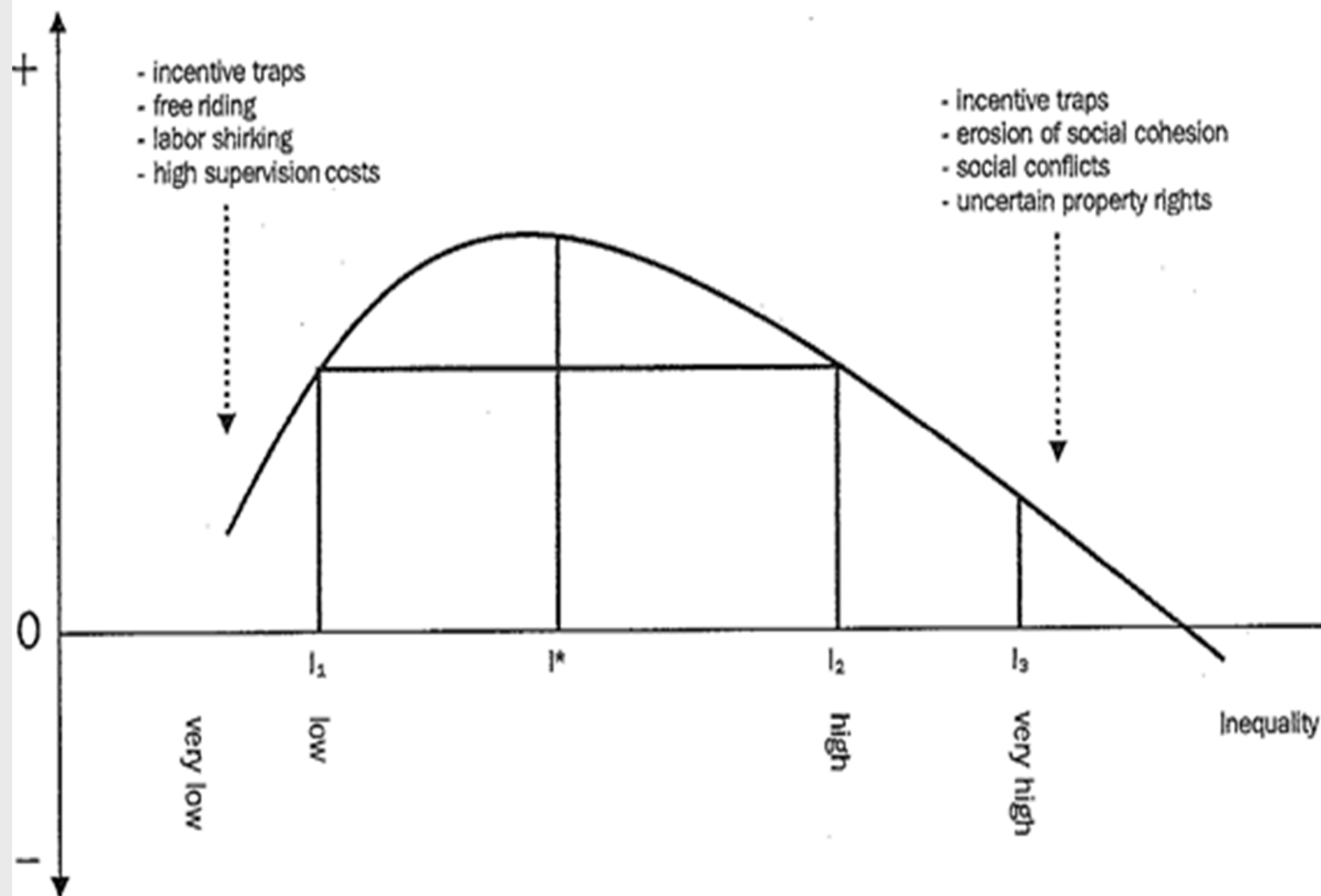
貧困層

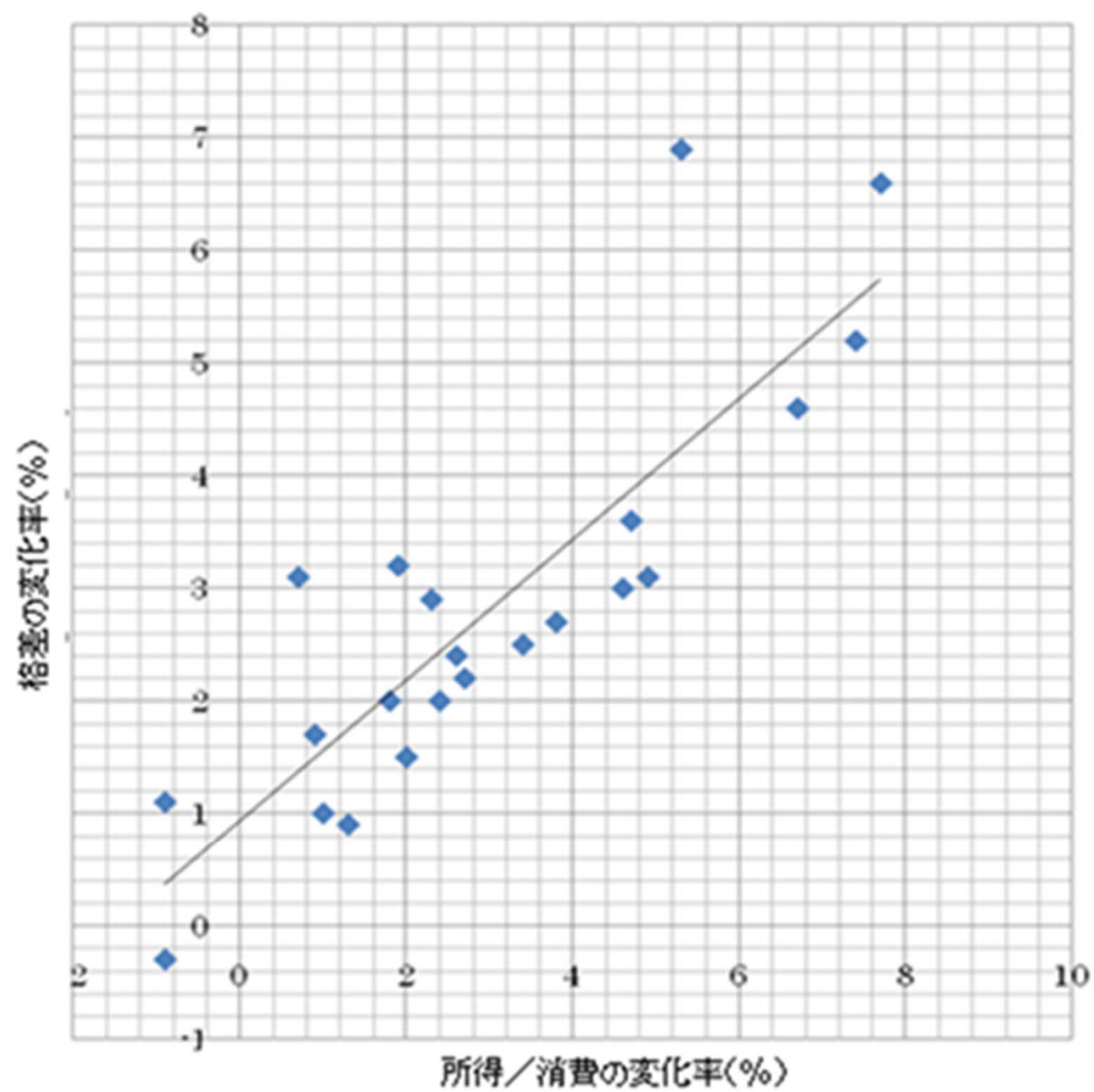
の垂直格差

1つの国に「光」と「影」の2つの経済



Growth (G)







Toshi Noda April 2009

5. 都市計画のための国際的ガイドライン

- 2050年までに新たに18億人増加する
- 90%以上が発展途上国の都市で増加
- その人口はインフラの弱い中小都市に集中
- インフラ基盤の整わない100万都市が出現
- 適切な国際的ガイドラインで準備・対応

主なポイント

- よりコンパクトで社会的一体性があり移動のしやすい都市を形成する
- 参加型の計画策定、参加型の予算執行
- 環境の持続性に最大限の注意を払う
- 都市の文化的側面(魂)を尊重するとともに、多様な文化の受け入れに努める
- 都市の危機管理に十分に配慮する
- 政治的支援のもとに適切な計画遂行体制を整える

● ケーススタディ(都市モデル)38都市

ex.

- ロンドン(英国)オリンピックの影響
- キガリ(ルアンダ)都市経済のインパクト
- クリストチャーチ(ニュージーランド)防災
- 福岡(日本)コンパクトな都市
- アメダバード(インド)階層移動と一体性
- ソルソゴン(フィリピン)気候変動対策
- ポルト・アレグレ(ブラジル)参加型予算執行
- アムステルダム(オランダ)都市再生計画

Liveableな都市:福岡

英国MONOCLE誌「世界で最も住みやすい都市Top25」

1. コペンハーゲン
2. メルボルン
3. ヘルシンキ
4. 東京
5. ウィーン
6. チューリッヒ
7. スtockホルム
8. ミュンヘン
9. シドニー
10. オークランド
11. ホンコン
12. **福岡** ←
13. 京都
14. パリ
15. シンガポール

「生活の質の高
さとショッピング
の充実した都市
」

「東アジアに
近いフレンドリ
ーで安全で清
潔な都市」

「日本の都市
には少ない、
海や緑の多い
開放的な都市
」

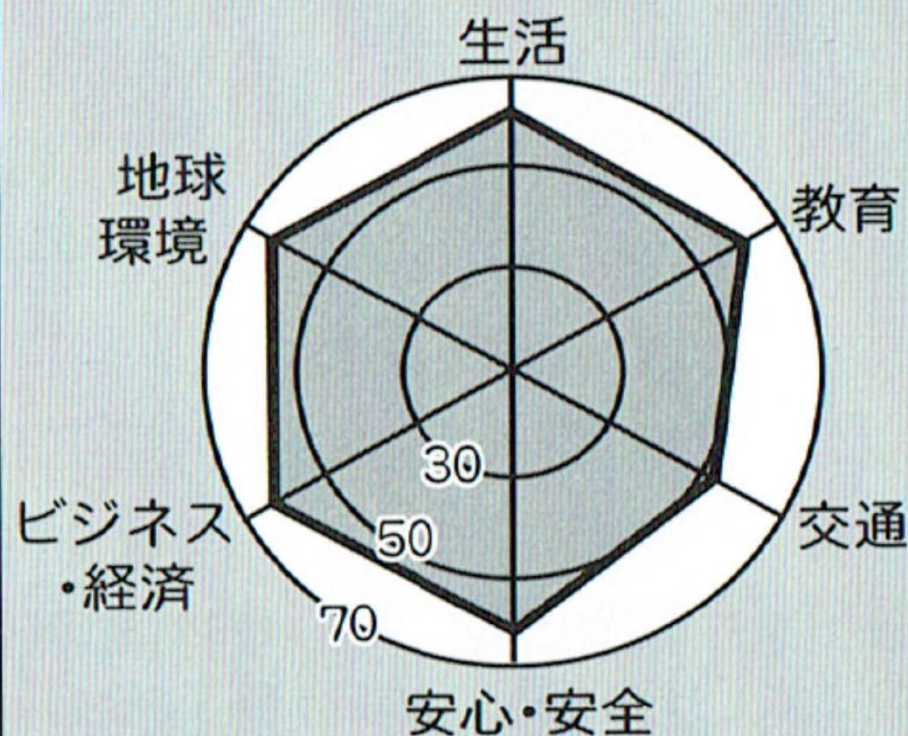
「アジアの商
業の中心地」

16. シンガポール
17. ハンブルグ
18. マドリッド
19. バンクーバー
20. ベルリン
21. バルセロナ
22. アムステルダム
23. ポートランド
24. サンフランシスコ
25. ジュネーブ

今年
10位

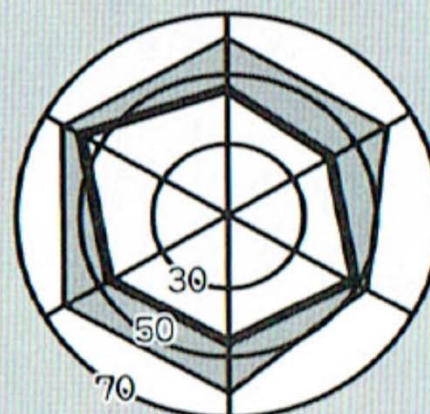
住みやすさの指標「福岡モデル」を用いた各都市の レーダーチャート分析

福岡市

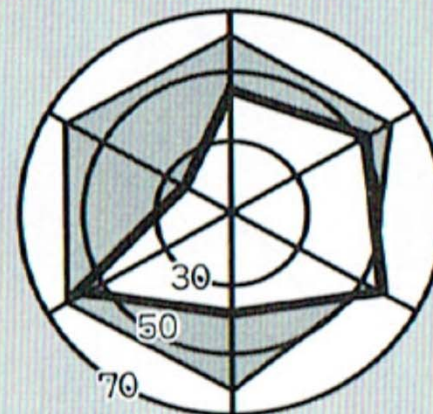


国連ハビタット福岡本部が、「生活」「教育」「交通」「安全・安心」「ビジネス」「地球環境」についての統計資料をもとにガイドライン指標として作成。アジアの中規模都市の平均値を50とした

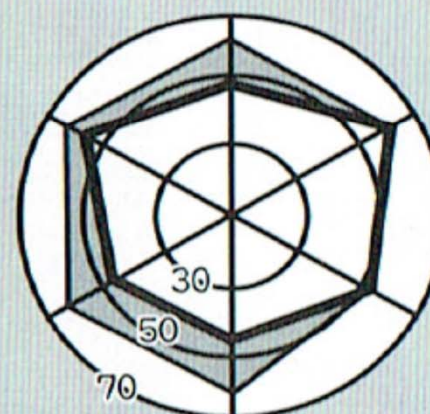
ビエンチャン (ラオス)



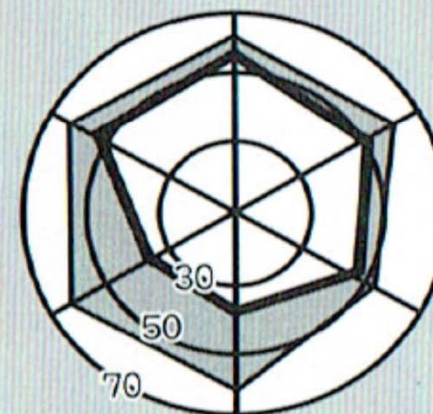
ウランバートル (モンゴル)

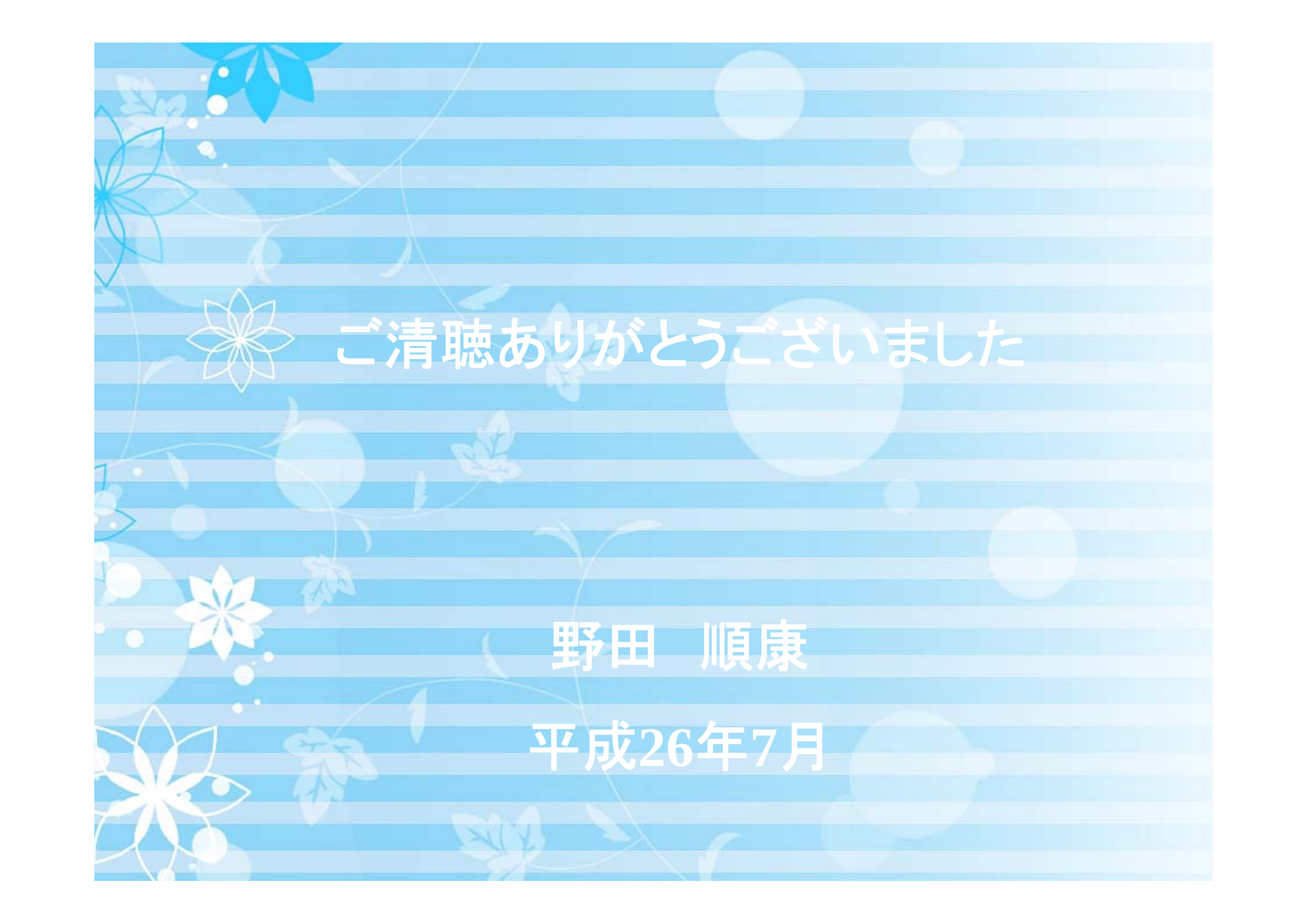


コロンボ (スリランカ)



セブ (フィリピン)





ご清聴ありがとうございました

野田 順康

平成26年7月